

1 0 . 政 務 活 動 報 告 書

議員名又はグループ名 新鹿会 湯澤英之

項 目	活 動 内 容 ・ 成 果 等
	<p>(1) 高齢者が安心して暮らせるよう、地域実情に応じた持続可能な公共交通サービスの確保・充実を図るために</p> <p>(2) 鹿沼市内を走るリーバスの実態調査を行った。 中古バスを利用し運行しているので、乗車に少々の課題があった。利用者が利用しやすいバスとして、バリアフリーであることや交通系 IC カードの導入などである。他自治体においても同様の案件はあると思う。 一方、運行側の苦勞されているところについては、「空気を乗せて走っている」などと揶揄されるように、乗車数の少なさより運用益が上がらないことである。その運行を実施するために市財政負担はもちろんであるが、県からも負担していただいている。 元々、赤字路線により撤退した路線に、市や県の予算を充当して運行された経緯もあり、この路線の黒字化は大変難しいし利用者のニーズに応えるための努力は欠かせない。 また、車社会が浸透している中で、利用者側の最大のニーズは、ドア to ドアである。この理想に近づける努力は大変なものである。</p> <p>(3) 第 395 回議会にて、一般質問を行った。 その際の答弁にて、公共交通サービスの必要性は理解していること、自動運転バスの実証実験をして、できるだけ利便性の高い公共交通サービスの実現を図っていくと答弁をいただいた。 また、運用益の助成について、赤字路線に対する助成条件が厳しかった所、緩和をしていただいた。</p> <p>(4) まだ、課題はある、 例えば、ドア to ドアのニーズにどう応えるのか？ 外出の内容によっては、出向くなどのことを考えるべきで、買い物支援や訪問医療の確立などの検討も同時にすべきであると思うし、</p>

	<p>外出機会を増やすための効果的なバスの運行ということも必要と考えることから、今後も継続して実施していきたいと思う。</p>
--	---